



小 松 川 閘 門

(荒川下流改修工事抜萃)

位置 東京府南葛飾郡小松川町地先

帝都と江戸川及び利根川とを連絡する小名木川が新荒川を横断せんとする右岸堤に築造せるものにして、新荒川の洪水期間と雖も其通航を遮断せしめることなく、平時に於ては其通船能力を倍加せんとするものなり。

型式 扉は捲揚扉を採用せり。即ち前後扉室各一枚扉にして扉室側壁上に相對峙せる鐵骨コンクリート塔の上部に架けられたる、コンクリート被覆鋼桁橋上の六十馬力電動機により開閉せしむ。

形狀寸法 前後扉室の中心距離は91米、扉室の有効幅11米にして、閘室の長さ74.9米其有効幅員14米なり。前扉室上には、コンクリート被覆鋼桁人道橋を架設せり。扉室の閘高はA.P.以下1.82米即ち平均低水位以下2.38米とせり。

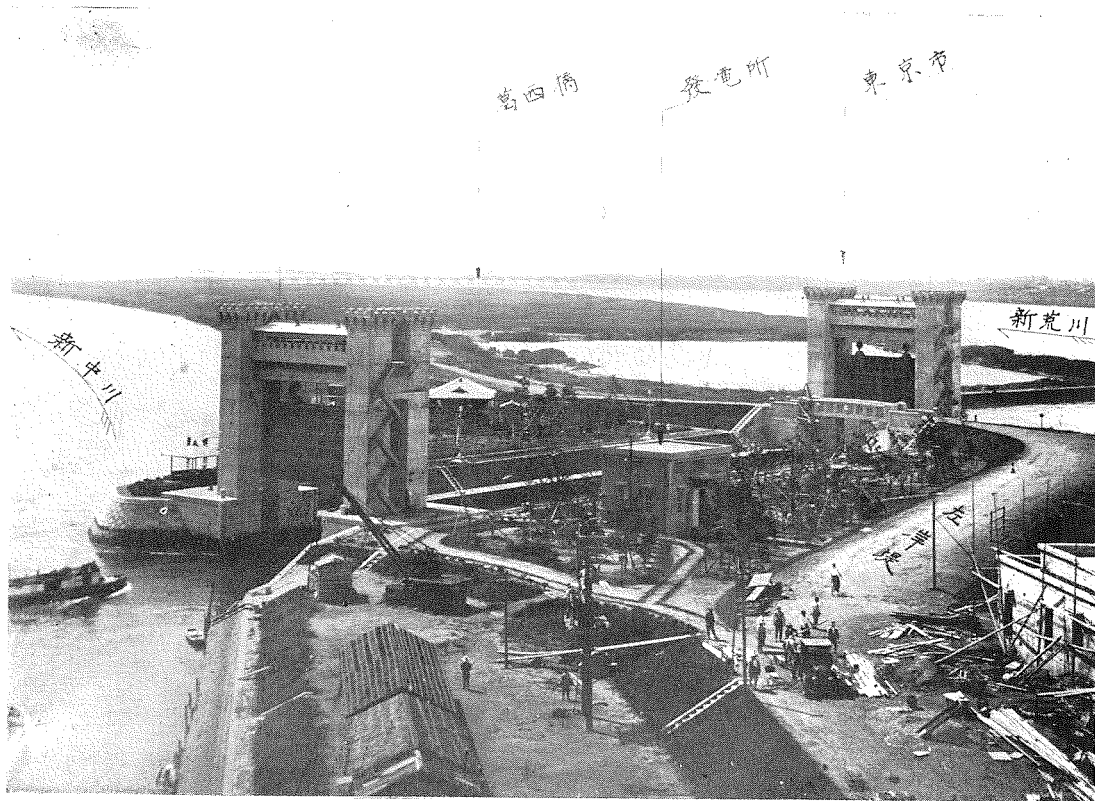
構造大要 扉室基礎は86種角長14米の米松杭と長13.64米の鐵筋コンクリート杭との二本繼杭を合計350個所打込み、床板は鐵筋コンクリート被覆鋼桁を縱横に組合せたり。側壁は鐵筋コンクリート被覆鋼桁を縱横に組合せたり。側壁は鐵筋コンクリート構造とせり。閘室の底部にはコンクリート張工を施し側壁は第二型ラルゼン式鐵矢板工とせり。扉室の前後にはコンクリート方塊張の二割は護岸を施して導水路を設けたり。導水路は船舶の通航容易なるため扉狀に左右に開放せり。

工 費 1,010,000餘圓

起 工 昭和二年四月

竣 工 昭和五年三月

運轉動力 平時に於ては東京電燈株式會社より購入するも停電等の場合には對岸船強閘門發電所より送電すべき送電線路を設備せり



船 掘 開 門

(荒川下流改修工事抜萃)

位置 策京府南葛飾郡松江町船掘地先
對岸の小松川閘門並に小名木川閘門と相對して新荒川左岸堤に築造せるものにして、新川を通過して遠く江戸川及び利根川に至る重要水路に通ずる地點にあり。

型式 小松川閘門と全く同じ

形状寸法 小松川閘門と殆ど同様にして基礎杭は未口 24 種長 22.7 米の米訟を杭打込み、其の床版は鉄筋コンクリート構造とせり。

工費 880,000 餘圓

起工 昭和二年五月

竣工 昭和五年三月

運轉動力 百馬力ディーゼルエンジンを原動力として 85 キロの發電機を廻轉して發電することとせり、故障の場合には對岸の小松川閘門に通ずる送電路により東京電燈會社より供給する設備とし、小松川閘門と連絡を保ち常に停電に依る故障を防止することとせり。